

地域研修を 被災地『福島県』 で受けました！

キャリアの軌跡

第58号

2016年5月18日 長崎大学病院医療教育開発センター発行

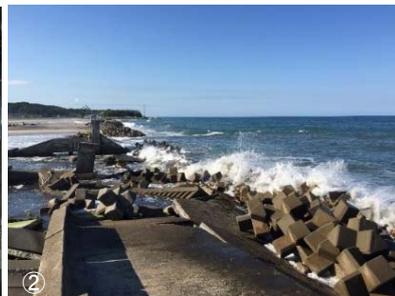


長崎大学病院の初期臨床研修では福島県南相馬市で地域研修を受けることができます。毎年、複数の先生方が研修しており、様々な経験をされています。ここでは南相馬市立総合病院に地域研修に行かれた先生方のレポートをご紹介します♪



2015年6月3日～7月12日
研修 2年目

- ① 福島県立医科大学にて講義を受けました。
- ② 南相馬の海岸線。防波堤はまだ崩れたままで、痛々しい印象でした。
- ③ 浪江町の新聞配達所には震災当時の新聞が未配送のままありました。
- ④ 以前、United Nations (国際連合)を見学した際、震災から2年という表題で震災の写真が飾られていました。今回の研修とは関係はないですが「風化させてはいけない」と感じた写真です。



事故・被災の爪痕に衝撃

Q 福島での初期研修で印象深かったことは？

浪江町などの居住制限区域を見学させていただきました。今でも放射線量が多いため介入ができておらず、当然のことですが、事故・被災当時の痕がはっきりと残っており衝撃的でした。復興に携わる人を多く見ることができましたが、その中にもいわゆる政治団体のような集団を見ました。そういった一面を見ることができたのも良かったです。

Q 福島で地域研修する方へアドバイスをお願いします。

何の目的で行くか(内科・外科)で大きく異なると思います。私は病棟業務はほとんどなく、往診・仮設住宅訪問・福祉施設訪問などが主でした。少子高齢化が急速・強制的に進んだ地域での医療制度の設備の必要性の一端を学べたように思います。かなり衝撃的な現状を見ることができ、視点が広がるととても良い機会でした

震災から4年半、新たな課題もあり



① 指導医の先生と乗馬でお世話になった皆さんが誕生日をお祝いしてくださいました。日本酒がおいしかった！ ② 指導医や福島の研修医の先生方。

Q 福島での初期研修で印象深かったことは？

南相馬市立総合病院で、主に仮設住宅の集会所に行き、ロコモティブシンドロームについての健康講話を行いました。住民の方と、震災のことや日々の生活のこと、健康の不安など様々なお話を聞かせていただきました。少しでも健康のお役に立てればいいという思いでお話し、一緒にロコモ体操を楽しみました！

震災から4年半が経過し、「今さら被災地に行っても意味があるのだろうか」と思っていました。復興は進んでいても、仮設住宅の空室増加や、避難区域解除による帰還など、新たな問題が発生しており勉強になりました。



2015年9月4日～10月11日 研修 1年目

Q 長崎では経験できない症例、勉強になったことは？

福島第一原発の視察に同行させていただきました。常に危険と隣り合わせの重労働、今後何十年も続く廃炉作業。避難解除地域がさらに拡大していく中で、廃炉と共存する社会を作っていかなければならないと感じました。

Q 福島で地域研修する方へアドバイスをお願いします。

なんととっても、出会いが素晴らしかったです！「野馬追」という伝統行事があり、乗馬が盛んな地域だったので、毎朝乗馬をしました。現地の研修医の皆さんもとても積極的に魅力的な方ばかりでした。先生方、研修医、地域の皆さん.....、出会ったすべての方から刺激を受けました。



① 福島県立医科大学での災害対応の机上シミュレーション。自分以外に医療従事者がいない想定で、避難所で誰を優先して搬送するか(大災害で救急車も足りない想定なので誰の自家用車を使うかなども含めて)などを考えるリアリティ溢れるシミュレーションでした。

② 南相馬での毎朝の楽しみ。総合病院の先生の紹介で近くの厩舎に毎朝乗馬をしに行っていました。いろいろな職業の方が朝から乗馬にいられていて、いろいろなお話をするのが毎朝の楽しみでした。

2015年10月12日～11月8日 研修1年目

素晴らしい出会いがありました！

Q 福島での初期研修で印象深かったことは？

南相馬市立総合病院での1カ月はとても充実したものでした。医師の仕事に加えて地域活性化のために活動しておられる先生も多く、医療以外の様々な職業の方と繋がることができました。また、南相馬の復興のために尽力されている、様々な職業の方と知り合えたことは自分にとって財産となりました。1カ月間でこんなにたくさんの人と出会ったのは、初めてのことです。

研修を終えて南相馬が大好きになり、以前より興味を持って福島の震災に関するドキュメンタリーやニュースなどを見るようになりました。震災は関係ない、よくわからない、と思わなくなったことがよかったですと思っています。

Q 長崎では経験できない症例、勉強になったことは？

仮設住宅への往診の同行をさせていただいたことは非常に良い経験になりました。運動不足などからくる糖尿

病者の増加など、震災当時とは異なる問題も山積していました。また、仮設住宅での健康講話をさせていただいたり、インフルエンザワクチン接種のお手伝いにも行かせていただいたことも良い経験になりました。

また、南相馬市立総合病院の研修医とも仲良くなることができました。研修医の人数は5人と少ないものの、自分たちで勉強会を開いたり、JATECをはじめとした様々な資格を受験したり、ケースレポートなどを投稿していたりする人が多く驚きました。「私も頑張らなければ」と思いました。

Q 福島で地域研修する方へアドバイスをお願いします。

私のように放射線や震災についてあまり知識がない人でも、事前学習用のe-learningを見せていただいたり、福島県立医科大学で講義をしていただけるので不安に思うことはないと思います。震災だけでなく、高齢社会についてもたくさん考える機会に恵まれ、本当に勉強になりました。「百聞は一見に如かず」。メディアからの情報だけでは伝わりにくいことをたくさん感じ、学ぶことができます。興味がある人は積極的に福島研修を考えてほしいです。



↑ 南相馬市立総合病院で症例発表し、表彰されました。

2016年1月10日～2月7日

研修1年目

被災地での個性豊かな活動

Q 福島での初期研修で印象深かったことは？

復興に向けて頑張る人々がたくさんいて勉強になりました。

Q 長崎では経験できない症例、勉強になったことは？

津波で家族を失った方から話を聞き、自分自身も家族の大切さを知る良い機会となりました。また、南相馬市立総合病院の先生方は、例えば自身が広告塔になったり、研究に力を注いでいたり、個性豊かな活動しておられました。そんな人を見ることで刺激を受けました。

Q 福島で地域研修する方へアドバイスをお願いします。

全体的に食べ物の味付けが濃いので、お酒(特に日本酒)が好きな方にはもってこいの場所です。7～8月にある「野馬追」という行事は迫力があり楽しそうです。やはり、寒さが一番辛かったです。コンビニは24時に閉まるので注意。

南相馬市の2病院で研修できます

■ 南相馬市立総合病院

福島第一原発から23kmの距離にあり、福島県浜通り北部に位置する相双地域の2次救急医療機関として多様な患者が集まる病院です。



同院での地域医療研修は、医療というより“地域”を学ぶことに重きが置かれています。具体的には「訪問看護師や訪問リハビリに同行してその意義と現状をみること」「南相馬市社会福祉協議会および包括支援センターで介護の現場や地域の現状を知ること」「障害者の就業支援をしている施設に出向き、彼らの活動の意義を知ること」「震災を経てこの地域に新しい産業を興そうと模索している人たちに会い、その思いを知ること」など、多様な内容となっています。

■ 公立相馬総合病院

同院の構成市町である相馬市、新地町は総力を挙げて復興に取り組んでいる地域です。東日本大震災以降、震災被害、放射能流失事故の影響は未だ収束せず、多くの住民が仮設住宅での不自由な生活を余儀なくされています。同院で研修することにより、その復興過程を身近な問題として実感できます。また、行政と協力して実施している放射能流失事故に関する健康診査・内部被爆検査など、通常では経験できない災害医療に関わることができ、今後の日本の医療を担う上で貴重な経験となるでしょう。